

グループホームよおぎ 東町

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	1. 誰もが自分らしい生き方を 2. 命と人権を尊重する介護 3. 安全、安心の質の高い介護 4. 介護を受ける権利を守り発展させる運動。 以上を目標としており、理念を職働会議で唱和を行い意識付けを行っている。	法人目標に基づいた職場目標を作成し、みんなで共有してケアに反映させている。1年毎に進捗状況を確認して、目標を見直している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や地域の組合員に支えられており、1年を通じて多数の行事や活動で積極的に交流を深めている。地域の認知症カフェへ月に1度定期的に参加している。 この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。	医療生協の組合が実施している催しに家族や組合員と一緒に参加している。 コロナの影響で実施が困難な状況でも、地域との情報共有は欠かさずに行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人、組合員として取組んでおり、事業所では地域からの個別相談のある場合は随時対応している。 介護についての学習会などを共同で実施している。 この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回取組んだ内容の報告を行い、参加者から率直な意見や要望を伺いサービスの向上につなげるようにしている。 前回の外部評価時の目標だった、家族の参加については改善できていないが、報告を行なって意見をもらっている。	2ヶ月に一度の運営推進会議では、施設の運営状況を報告し、参加者からの意見が出れば、職場会議を通してその内容を共有し、サービスへとつなげている。	他のグループホーム職員と運営推進会議に参加し合っているかどうか。他施設と連携することも有意義であると思われる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる	市の施設部会、行政などの取り組みに可能な限り参加し、情報交流を図っている。 この間は、新型コロナウイルスの影響もあり、電話にて適宜連絡、相談を行っている。	認知症連絡会や施設部会などの交流の場を積極的に活用し、情報取得に努めている。 市からもメールにて様々な情報が配信され、良い連携がとれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を3ヶ月に1回のペースで開催、又は学習会を実施している。夜間の玄関とエレベーターは施錠を行っている。 スピーチロック改善に向けた経過改善取り組んでいる。	利用者の安全確保の観点から離床センサーを使用するときにも、家族や職員間で十分な協議を行っている。 3ヶ月に1回の開催が義務付けられている身体拘束検討委員会も職員会議の後に実施し、記録も整備されている。	身体拘束検討委員会を、運営推進会議を活用して、職員間の検討と外部の専門家の意見を取り入れる検討と、交互に実施してはどうか。 検討内容にもメリハリがつき、職員の参考にもなると思われる。
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束防止委員会において学習会を行ない、高齢者虐待について理解するよう努めている。 現在は経過改善によるスピーチロックの改善に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人として、制度教育やウェブ学習として権利擁護や社会保障に関する研修を行っている。		

9	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約書と重要事項説明書を用いて、利用者、家族が理解できるよう丁寧な説明を行い、質疑しやすい雰囲気づくりを心掛けている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎年アンケートを実施している。3ヶ月ごとに家族会を開催していたが、この間は新型コロナウイルスの影響で中断している。家族面会時には入居者の現況を伝えるなど実施している。対話の内容等、職場会議や申し送り報告を行い必要に応じて対応の検討を適宜行っている。</p>	<p>家族と話をする機会を積極的に設け、要望や意見を積極的に取り入れてケアに反映させるよう心掛けている。</p>	<p>今後、家族との連絡手段にSNSの活用も検討してみようか。</p>
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職場会議で直接意見を聞いたり、意見が出せるよう報告用紙を活用している。また、年に2回程度の個人目標確認を行っており、面談などで意見を聞く様に努めている。</p>	<p>管理者は、職員1人1人との対話の時間を大切にしており、定期的に面談シートを活用して意見の吸い上げを実施している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>労働組合があり、労働規約などでしっかり整備している。また、職場会議や面談などでも要望を出せるようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>力量チェックシートで職員の力量を把握し、個人目標の設定にて力量アップを図っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>運営推進会議にて、地域包括支援センターと交流を持っており、地域包括の事業所との意見交換を持っている。法人外ではGH分科会や市の施設部会、民医連主催の学術運動交流会などに参加している。また、同法人内での連絡会や同系列法人との交換研修も行っている。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前または入所時にアセスメントを行ない、本人の意向を聞いている。その上で、新しい環境に慣れってもらう為にも、話しをしたり日課を本人のペースで築けるよう共に過ごす時間を大切にしながら支援を心掛けている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前または入所時にアセスメントを行ない、家族の意向を聞いている。来訪時は介護職員だけでなく計画作成者や管理者からも話しかけ、日常の様子や施設の説明など行っている。また一方的に話すのではなく疑問に思っている事や不安などないか確認しながら関係作りにも努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主に計画作成者が生活層や入所前の様子を利用者、家族より聴取を行い、適宜カンファレンスを実施している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食器洗いなど一緒に家事をしている。余暇時間等は何をするか利用者と相談しながら過ごしている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診の付き添いや定期的な外出など家族に対応してもらったり、行事ごとなど家族と参加を募るなど家族間との関わりが持てるよう支援している。しかし、家族が遠方に住んでいる事もあり、職員対応となっている部分もある。この間は、新型コロナウイルスの影響で面談を制限しており、電話での連絡で共有を図っている。		
20	8 ○馴染みの人や場と関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人が来訪した時は明るく迎え入れ、居室にてお茶でも飲みながらゆっくりと談笑していただいている。この間は、新型コロナウイルスの影響で面会は、中止している。	近隣への外出支援に医療生協の組合員がボランティアで来てくれる。地域に密着した事業所として、気軽に立ち寄れる環境づくりを心掛けている。	
21	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように声掛けや座席の位置を工夫している。職員が入って関わりが持てるよう支援している。茶話会を行い、利用者と職員が一緒に談話したり、昔の思い出話を聴く機会を設けている。		
22	○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了しても必要に応じて相談などを行い、変わらない関わりを持っている。医療生協の取り組みなどにも声を掛けている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、一人ひとりに耳を傾け、要望・希望の把握に努めている。課題のある時は、カンファレンスで意見を出し、話し合うようにしている。	日々のケアの中で利用者が呟いた言葉や希望を書き留め、思いや意向を反映した支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の生活歴や暮らし方を理解するよう努めている。日常の会話でも本人に思い出話を聴いたり、サービス担当者会議でも家族様に音声を聴いたりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行なうことで必ず利用者と向き合う機会を持ち、声掛けや日常の生活を観察する事で現状把握に努めている。自立支援のための洗濯を量む作業や計算問題を行い、できている事、できなくなった事の現状把握として行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常生活の様子や家族、職員から知り得た情報を元に介護計画を作成しており、モニタリングで介護計画の実施状況や評価を行い継続したサービス提供を心掛けている。	介護スタッフが利用者や家族から知り得た情報は、計画作成担当者とも情報共有を図り、ケアプランに反映させるよう努めている。	法人のケアプランセンターの協力を仰ぎ、時折、ケアプランについての意見をもらってみたいかどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調、活動状況を記録し情報を共有している。毎月の定期受診、必要に応じて臨時受診。看取りの期間に入ると、毎朝、医療連携用紙を併設のクリニックと情報共有行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設クリニックと連携し、医療面でのサポートをおこなっている。訪問歯科や地域から敬愛やボランティアの来訪など取組んでいる。また、生機能向上加算を取得し、リハビリの専門職からの意見を踏まえ、提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	生協組合員ホールへの訪問や地域の祭りや催しごとに参加している。この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設クリニックの医師、看護師と密に連携している。必要に応じて、主治医より病状説明を実施。本人・家族の同意のもとに安心できる医療を提供している。	併設しているクリニックの医師がかかりつけ医であり、医療連携が円滑に機能し、適切な医療支援体制が構築されている。利用者は24時間安心して過ごすことができる。	

31	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>併設クリニックと連携しており、医療連携看護師や理学療法士など随時相談できる。夜間はオンコール体制をとっており、担当看護師、医師の指示を仰ぎ適切な対応が取れる体制をとっている。</p>		
32	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院の際は、入所時の情報提供を行ない、定期的に面会に行き情報収集をしている。病院のMSWを通じて相談、調整も行っている。</p>		
33	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>サービス担当者会議を通じて看取りについての思いや考えを家族職と普段から話あう機会を持ったり、終末期に入ってから看取りケアの指針や意向確認書などを用いて説明。適宜、家族・医師・看護・介護とのカンファレンスを実施することで情報を共有し方向性の統一を図りチームケアに努めている。</p>	<p>併設しているクリニックと連携し、重度化した場合の対応や終末期の看取りについて、本人や家族の希望に基づいたケアが実践できている。利用者家族からの信頼も厚く、安心して任せられる施設となっている。</p>	
34	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>看護職員によるアドバイスや研修、日常業務を通じてスキルを伸ばし、急変時の対応に備えている。緊急時の吸引機の使用方法については、随時職場会議での学習会を行っている。</p>		
35	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導の元、組合員の災害協力隊を交え年2回避難訓練を行っている。災害時の備蓄に関しては、給食会社により約2日分の食材の確保はできている。</p>	<p>4月は全館で避難訓練を実施し、10月はショートステイ利用者と一緒に夜間想定訓練を行っている。水や食糧の備蓄も確保できている。</p>	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し、個々に応じた声掛けや対応を行っている。現在は接遇改善の取り組みに努めている。	職員は医療生協の通信教育を受講し、スピーチロック（言葉の拘束）をしないケアについて学ぶなどし、日々のケアに反映させている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択できるような声掛けや自己決定できるような声掛けを心掛けている。現在は接遇改善の取り組みに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課として一日の流れがあるが、利用者の体調、意向に沿って支援している。横になりたい時は居室で休んでもらったり、一緒に散歩やテレビ観賞、個別レクを提供したり一人ひとりの時間の充実を大切にすることを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の好みを伺いながら一緒に準備したり、整容、身なりには気をつけており、衣類の汚れがあれば適宜更衣、洗濯を行っている。散髪は月に1回、出張美容。それ以外にも散髪やパーマ・毛染めを希望される人は近所の美容院へ送迎する等、個々に合わせた支援をしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	業者委託により毎食配送されており、配膳、片付けなど利用者が出来ることは手伝ってもらっている。	盛り付けや配膳など、できることは利用者と一緒にやり、おやつは注文時にも一緒に選ぶなど、食事自体だけでなく、その過程も利用者に関与や楽しみを持ってもらえるように配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量を確認しており、必要に応じて療養食や栄養補助食の対応を行っている。必要に応じて、補助食品などを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け、手順説明をするなどの支援を行っている。また、週1回の訪問歯科の対応により、治療及び予防に努め、口腔ケアのアドバイスも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援を行っている。夜間帯には、ポータブルトイレの使用も個々に合わせて行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、2時間ごとの巡回で時間管理をしながら、利用者個々の排泄の自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操やウォーキングなどの運動をしている。排便表を管理し医師の指示により、下剤の調整を行っている。		

45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回以上、個浴槽にて入浴をしている。体調不良、気分が優れないなどの際は日時をずらすなどの対応を行っている。季節感を感じてもらえるようにゆず湯なども行っている。	本人の拒否があれば無理強いせず、翌日に振り替えるなどの対応を行いながら、週2回以上の入浴を確保している。入りたい時間帯や回数などの要望があれば、できる限り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は個別に希望や様子に合わせて、居室での休憩時間を設けている。夕食後は入眠時間になるまでフロアで過ごしたり居室で過ごしたり個人の意思を尊重している。時間にはパジャマへの更衣を促し自力で行うよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	連携の薬局により薬の準備を行い、服薬時には必ず日付、氏名を2名のスタッフで確認し、服薬している。各ユニットごとに設置している薬情報ファイルにはいつでも内容が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団のレクリエーションや太極拳、書道などや個々の趣味活動として漢字・計算ドリルなどの機会を提供している。この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別対応での買い物や散歩の支援をしたり、地域での催し事に家族やボランティアの方と一緒に参加している。しかし、家族が遠方の方も多く、回数は限られている。この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。	コロナ禍で外出ができない状態でも、広い屋上を活用し、紅葉を楽しんだり食事会を行ったりして外の空気に触れ、利用者が季節を感じられるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は自分で所持されており、管理が困難である方は事務所内金庫にて保管している。必要に応じて金銭を渡し買い物など行っているが、この間は、新型コロナウイルスの影響で中断している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者宛てに届いた家族や知人からの手紙やはがきは手渡している。電話の希望があれば事務所にて掛けてもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	屋上では季節の花を栽培し、散歩の際は季節を感じる事が出来る。窓には障子が設置されており、日中は柔らかな光が差し込む。フロアでは機かしい曲を流したり、利用者や季節に応じた装飾をして心地よい空間づくりを心掛けている。玄関、フロアは利用者と清掃し、常に清潔が保てるよう努めている。	建物は近代的な造りであるが、施設内は「和」をコンセプトに、利用者が住み慣れた木のぬくもりが感じられる造りになっている。季節を感じられる装飾で、清掃も行き届いており、気持ちよく過ごせる空間となっている。	

53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>一人ひとりに個室があり個々の時間を過ごせるスペースがある。フロアは各テーブルやソファで少人数ごとに過ごされたりしているがパブリックスペースとして確保は出来ていない。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使っていた物やなみもの物を居室に置き自宅で過ごしているような環境づくりに努めているが、背の高いタンスなどは地震対策の一環で持込を遠慮いただいている。</p>	<p>居室の表札は、印象的な和風の造りになっている。</p> <p>利用者の居室は、希望があれば家具などの使い慣れたものの持ち込みを可能としている。</p> <p>常に気持ちよく利用者が生活できるよう、清掃にも気を配っている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内はバリアフリーで手すりが設置されている。非常扉以外はすべて引き戸にしており安全面への配慮に努めている。</p>		

## V アウトカム項目

56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)</p>	○	<p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
66	<p>職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)</p>	○	<p>①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
67	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない</p>
68	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p>	○	<p>①ほぼ全ての家族等が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない</p>